

令和5年度「県立学校による地域との協働推進事業」研修会 実施報告

《日 時》 令和5年11月28日（火）
《場 所》 県立教育研究所 中講座室1
《参加者》 各県立学校の管理職、本事業担当者

参加者合計 35名

《内 容》

◆講 演

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」
～社会に開かれた教育課程の実現から～
滋賀県立湖南農業高等学校 学校運営協議会
会長 高木 和久



【講演の概要】

- ・「次代の社会・地域の担い手である子どもたちに、これからの変化の激しい社会を生き抜く力を育むこと」に重点を置いた取組を創出することが大切。
- ・どのような取組を実施するかという視点ではなく、「どのような子どもを育てたいか」という視点から取組を創出することが大切。
- ・高等学校も特別支援学校も、どのような企業・団体等とつながっても協働相手は「地域」である。子どもたちを育むために各方面とつながり、積極的に連携・協働体制を構築することが重要。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の観点から、学校運営協議会における「熟議」により学校・地域・家庭が共有した「子どもたちを育むための具体的な行動目標」を達成するために、それぞれが当事者として役割を明確にして取組を進めることが重要。
- ・子どもたちが教師の「指示待ち」の状態で行うのではなく、主体的に課題を設定し、解決に向けて行動していけるような仕掛けをすることが必要。
- ・特別支援学校において地域学校協働活動を考える際に、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）の視点からもアプローチすることが必要。
- ・総合的な探究の時間に関連付け、教科や科目等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力の育成を目指した取組を行うことが重要。
- ・高等学校における地域学校協働活動には、「キャリア教育支援」、「地域課題解決と魅力発信」、「探究型学習」、「先端技術の取得」等が考えられる。特別支援学校においては、「作業学習」、「礼節研修」、「IT等を活用したサービス業体験」、「企業等での体験学習」、「地域での農作業体験」等が考えられる。各校の「育てたい子ども像」と学校や地域の現状に即した活動を行うことが重要。
- ・「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を図るために、各学校や地域の現状に合った連携・協働体制を構築することが重要。

《参加者の感想》

- ・連携、協働活動の原点は「どのような子どもをどう育てるか」であることを再確認することができた。
- ・県立学校における現状と課題点を今後の自校の運営に参考にしていきたい。
- ・学校運営協議会委員に、ただ評価してもらうだけでなく、「学校のために一緒に何ができるか」を共に考えていくことが重要であると改めて思った。
- ・特別支援の内容も含まれていて、大変参考になった。
- ・本校も、生駒市やNPO、地元企業との連携に取り組んでいる。本日の講演内容を参考に、学校と地域をつないでいけるようにしたい。

